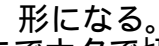
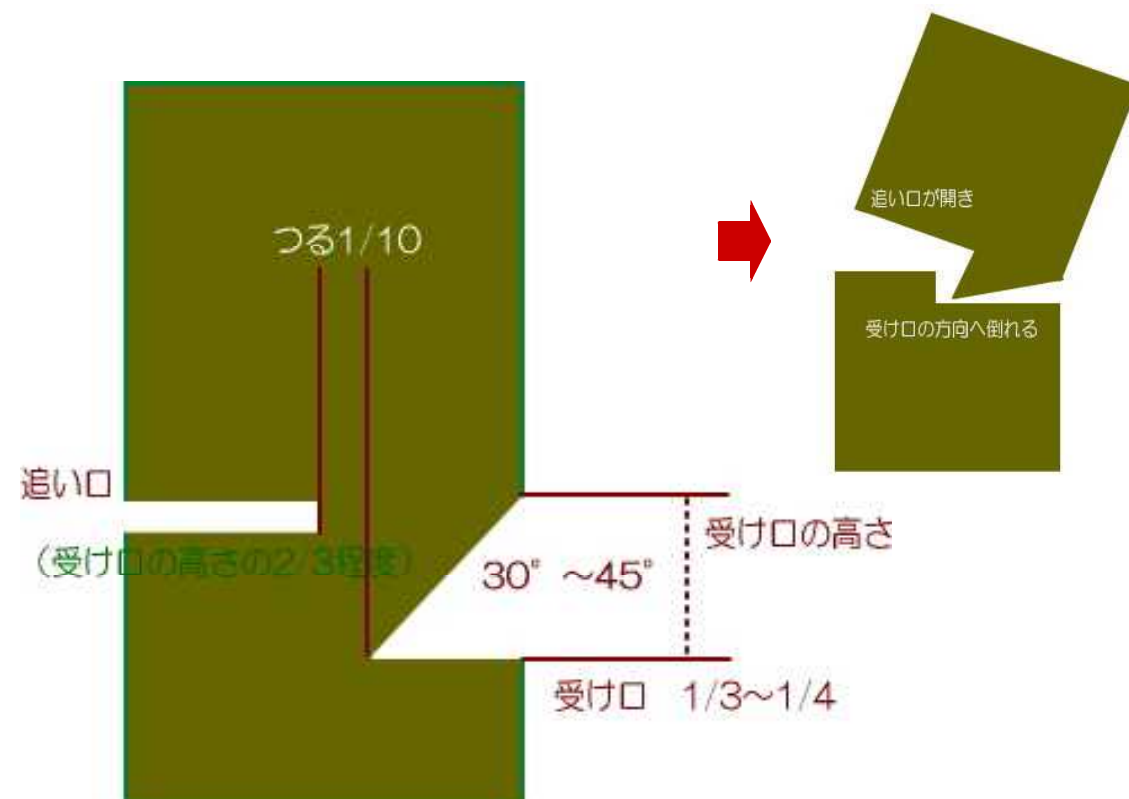


間伐木の伐倒の手引き

- 1 伐倒する木を選びます（選木）。
どの程度の間伐を行うか事前に打ち合わせる。
伐る木にテ - プなどで印を付ける。被害木、成長の悪い木を中心に選ぶ。
逆に保存木マ - ク法（残す木を選ぶ）もある。
- 2 伐倒する木の周辺を整理します。
雑草、笹、雑木、枯木などを整理し、直ぐに逃げられる所を確保する。
伐る木にからんだツル類は事前に切っておく。
追口作業の足場を固めておく。
右利きの人は左足が谷側で重心を置き、右足を前で山側に置く。
- 3 倒す方向を決めます。
倒す順番を決める。空間の多いほうから倒す。
周辺の空間の多い方向と木の重心から倒す方向を考える。
枝が隣の木の枝にかからない方法を見定める。
倒す方向の正面に立って、障害となる木や枝が無いか確認する。
- 4 受け口をつくります。
出来るだけ低い位置で作業性を考え、倒す方向に切り込みを入れる。
3 ~ 5 回ノコを引きそのまま手を動かし、水平を少し離れて確かめる。
倒す方向と直角に、幹の直径3分の1程度、ノコで切る。
次にナタで30° ~ 45°の角度で斜めに切り込みを入れる。
なお、切ったところは、 形になる。
必ずノコで切ったところまでナタで切る。怠ると「つる」が残らず危険。
逆ナタは滑って危険なので厳禁。
- 5 追いを切る（直径15cm以下）。
受け口高さの2/3程度を目安に切り込む。
補助者は追いの後ろに立ち、倒す方向に押す。
相当に切れたら、間欠的に押し、切れ具合を確かめる。
倒れそうになったら「タオレルゾ - 」と大声を出す。
「つる」を効かせて、押し倒す。倒れ始めたら隣の木の陰に隠れる。
木が倒れるときの、枯れ枝等の落下、跳ね返りに注意する。



間伐体験

人工林の役割と間伐の必要性について



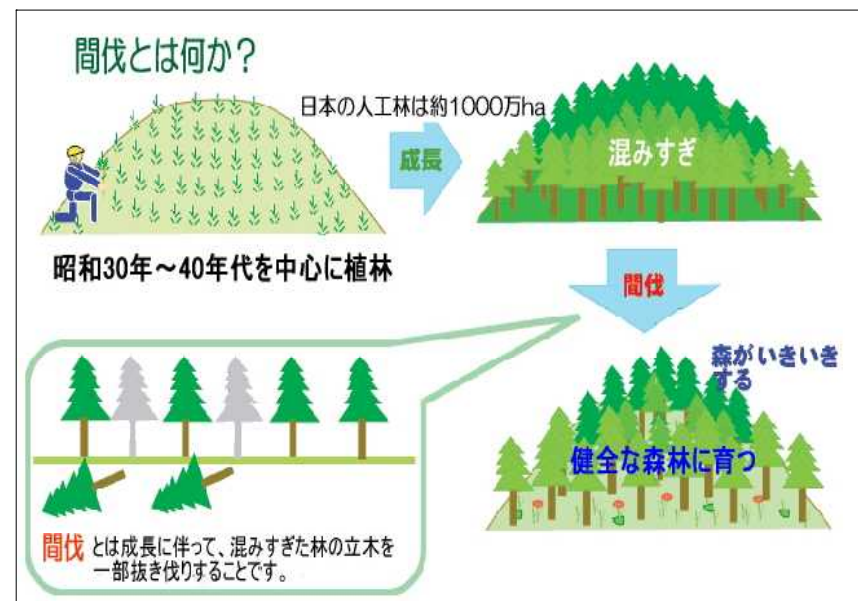
林野庁 北海道森林管理局
留萌南部森林管理署

健全な森林へ導くために必要な間伐

人工林を維持するためには、森に人の手を入れることが大切です。

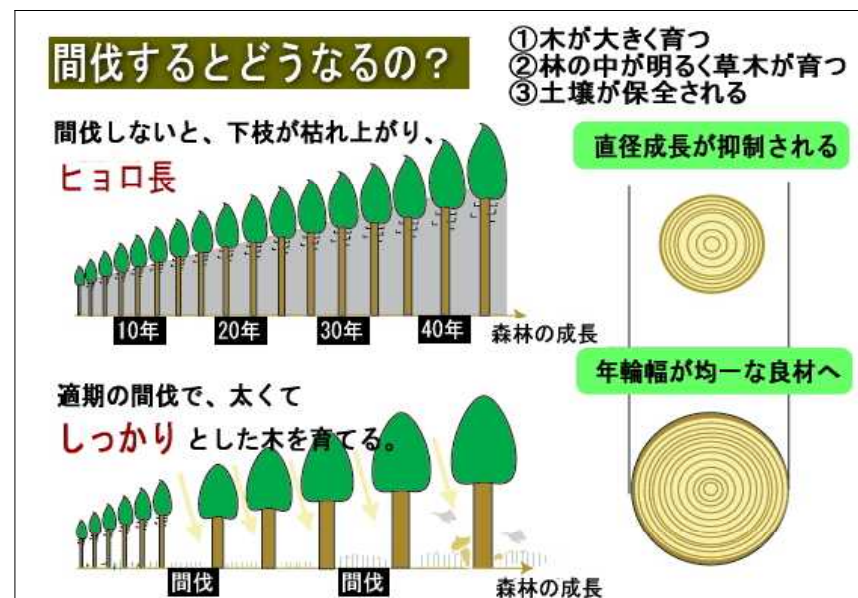
それは、間伐や除伐、枝打ちといった手入れを行わなくては、人工林はその活力を保つことができなくなるからです。

間伐は、樹木の密度を調節して健全な森林を育成し、利用の目的に応じた木を育てるために行われます。



豊かな水源林の維持や多様な森林生態系の保全、炭素の固定による地球温暖化の防止など、森林は公益的な機能を沢山もっています。

高い機能を持つ森林をつくるために大切なのが、間伐等の森林整備であり、森林整備をより効率的に進めて行くためにも、間伐により発生する小径の丸太(間伐材)の活用が必要になってきています。



資料：林野庁HP

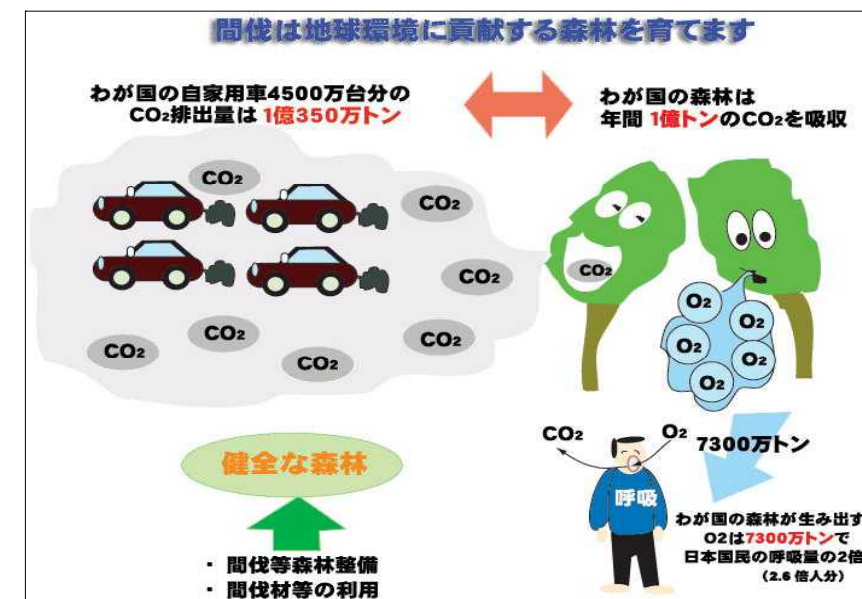
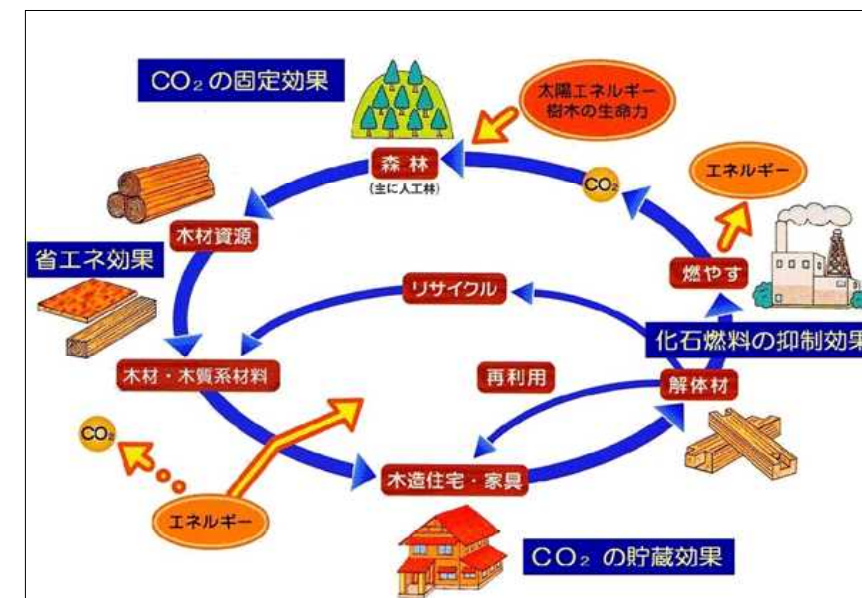
森林・林業と地球温暖化防止

木材を使うことは、二酸化炭素の貯蔵、排出抑制を通じて、地球温暖化防止に貢献します。

木材を住宅や家具にたくさん利用し、手入れをしながら大事に使い続ければ、木材の中に固定された炭素をそれだけ多く長い間蓄えることになり、大気中の二酸化炭素の濃度が上昇するのを抑えるのに役立ちます。

つまり、木造住宅を増やしていくことは、街にもう一つの森林を造ることと同じような効果があるといえます。

また、木材は、鉄やアルミニウムと比べ、製造や加工に必要なエネルギーがとても少なくてすみます。ですから、これらの資材の代わりに木材を使えば、その分だけ省エネルギーにつながります。



資料：林野庁HP